

156 低酸素低栄養環境下の膵癌細胞での遺伝子変異の探索

青山 徹

ゲムシタビン（以下、GEM）を用いた膵癌術後補助化学療法施行例において human equilibrative transporter 1（以下、hENT）の発現と臨床病理学的な特徴と、治療効果及び生存への関連を検討した。2005年から2014年までの10年間に、神奈川県立がんセンター肝胆膵外科で治療切除され術後GEM補助療法施行膵癌症例101例を対象とした。hENTの発現解析結果と患者臨床情報、特に、GEM術後補助化学療法の効果について統計学的な相関解析を実施した。対象の年齢の中央値は66歳（range: 40 - 78）、男性が57例/女性が44例、28例が膵体尾部切除/70例が膵頭十二指腸切除/3例が膵全摘術をそれぞれ施行、85例がR0切除で16例がR1切除であった。観察期間の中央値は67.3か月（range: 22.2 - 122.7 月）であった。hENT陽性症例は、60例（59.4%）であった。hENT陽性群とhENT陰性群で、年齢・性別・腫瘍の進行度などを比較検討すると、両群で明らかな差を認める因子はなかった。hENTの予後への影響を検討すると、3年と5年の全生存率はhENT陽性症例では32.2%と20.6%、hENT陰性症例では8.9%と8.9%と有意な差を認めた。生存率に関わるリスク因子解析を施行し、hENTのステータス（陽性 vs 陰性、HR比: 1.740、P値: 0.019）は独立した危険因子となった。

hENT陽性群と陰性群での全生存期間の比較

